

2025 年度事業計画（案）

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2025 年度事業方針

2025 年度の事業方針です。

事業として、第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京を、東京都北区で開催しました。多くの協会員のご参加、ありがとうございました。

福祉機器コンテスト 2025 は、特別協賛、協賛企業様の支援をいただき、決定することが出来ました。受賞作品は、第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京において既に発表をさせていただきました。表彰式は、より多くの方に知っていただくために、H.C.R.2025（第 52 回国際福祉機器展）で執り行う予定です。受賞作品は、ニーズ・シーズマッチング交流会 2025 やバリアフリー2026 会場での展示を予定しており、より多くの方の生活支援へつなげることが出来るよう展開を検討します。

協会誌は、郵送料の高騰という課題に対して、多くのご意見をいただき、電子化と特集の年に一度の合本号とすることを決定しました。即時の電子公開となりますので、協会誌編集委員会特集記事小委員会による、リハビリテーション工学の基礎から応用、今後を示唆する特集をさらに推進していきます。学術的な推進を支える同査読論文小委員会によって、優れた研究も、より早く公開することが可能になると考えています。アクセシビリティの改善が更に可能になります。皆様の更なる積極的な投稿を期待しています。

分科会・専門委員会関連事業として、SIG (Special Interest Group) の対面開催の講習会が実施されます。実施する企画に関しては、案内を地域限定とすることなく、全国的に協会のメーリングリストで情報共有します。また協会誌に参加報告結果が掲載されるようにします。電子化により、より早い情報提供が出来ればと思います。

地域支部は、Web 会議システムを利用して、企画した支部のイベントに、離れた地域からも参画できる仕組みが実証されました。旅費・移動時間と可能性を拓ける方法の一つではあります。もちろん対面開催も大切に、ハイブリッドも出来る範囲で、進めていきたいと考えています。協会主導のイベントであるリハエミライ・アッセンブリーとも、さらなる連携を進めます。

災害対策は、災害対策委員会が継続して対応します。一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）に参画し、活動します。他の JRAT 加盟団体と継続的な情報共有を行い、適切な支援の継続を進めます。協会独自には、今回の第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京でも、セミナー・ワークショップ・展示を実施しました。引き続き八王子いちよう祭りに参画し、災害対策セミナー開催を検討します。

企画推進事業は、リハエミライ・アッセンブリーを定期開催します。会員限定で無い、情報発信の場として継続します。中国四国支部の新しい取り組みで、可能性が広がりました。地域支部はもとより、協会誌連動企画、複数の SIG との連携も検討します。

国際連携は、GAATO (Global Alliance of Assistive Technology Organizations) 加盟団体として、継続的に参加します。2025 年度は、アジア・韓国、世界保健機構（WHO）との連携を、より深めていきます。

総務関連では、協会が一般社団法人としての内部課題を更に解消していきます。

財務体制は、さらに徹底します。事務局の強靱化に関しても、検討を進めます。

2024 年度、代議員・役員選挙の準備に問題が発生しました。2025 年度当初から協会員の皆様にご心配をかけることとなり、大変申し訳ありません。理事の数も減ることとなりましたが、執行体制が衰弱しないよう、理事一丸となり、また委員会活動を積極的にし、協会を発展させてまいります。また、定款改正も検討し、規則・細則を遵守できるよう、対応していきます。

最後に、本年度は協会発足の1986年から40年となります。40周年記念事業を開催します。創成期からの歴代の大切な話題を関連事業とも連携しながら記録し、次の未来に向けた事業の基盤として再確認してまいります。方針は、以上となります。

2025年度も、皆様よろしくお願い致します。

会長 河合 俊宏

1 事業

1. 1 リハ工学カンファレンス関連 (担当理事：鈴木太・渡辺崇史)

- (1) 第39回リハ工学カンファレンス in 東京 開催準備
 - ・テーマ：アクセシブルな未来のデザイン
 - ・開催日：2025年8月8日（金）～10日（日）
 - ・会場：東洋大学赤羽台キャンパス（東京都北区）
 - ・実行委員長：高橋良至氏（東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授）
- (2) 第40回リハ工学カンファレンス開催準備
- (3) 第41回リハ工学カンファレンス開催準備
- (4) UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）継続利用
 - ・演題募集・登録のため UMIN システムを利用（システムの有料化に対応）

1. 2 福祉機器コンテスト関連 (担当理事：村田知之)

(1) 福祉機器コンテスト 2025

1) 第二次選考会

機器開発部門は、応募者によるプレゼンテーションおよび実機による審査を実施
学生部門は、実機による審査を実施

- ・開催日：2025年8月9日（土）
- ・会場：東洋大学 赤羽台キャンパス（東京都） 及び Web 会議システム
- ・機器開発部門 応募数：13件（会員4件、非会員9件）、前回は15件
- ・学生部門 応募数：18件（会員0件、非会員18件）、前回は31件

2) 発表・表彰

- ・発表は、第39回リハ工学カンファレンス in 東京のプログラム内を予定
- ・表彰は、H.C.R.2025（第52回国際福祉機器展）期間内、同会場にて予定

3) 展示・広報：

- ・第39回リハ工学カンファレンス in 東京（東京都） 2025年8月8日（金）～10日（日）
（一次選考会通過作品の展示）
- ・H.C.R.2025（第52回国際福祉機器展）（東京都） 2025年10月8日（水）～10日（金）
- ・ニーズ・シーズマッチング交流会（東京会場） 2025年秋頃
- ・キッズフェスタ 2026（東京都） 2026年4月頃予定
- ・バリアフリー2026（大阪府） 2026年4月15日（水）～17日（金）
- ・協会誌 Vol.40 No.3 に応募状況について掲載予定
- ・協会誌 Vol.40 No.4 に受賞作品を掲載予定
- ・協会誌 Vol.41 No.1 に報告を掲載予定

(2) 福祉機器コンテスト 2026

- 1) 特別協賛：(予定) フランスベッド株式会社
- 2) 協賛：(予定) 株式会社ケーブ、日本 3D プリンター株式会社、株式会社フロンティア
- 3) 後援：(予定) 厚生労働省、経済産業省、(公財) テクノエイド協会、
(公社) 日本理学療法士協会、(公社) 日本生体医工学会、(公社) 計測自動制御学会、
(公社) 日本義肢装具士協会、(一社) 日本義肢装具学会、(一社) 日本作業療法士協会、
(一社) 日本生活支援工学会、(一社) 日本福祉用具・生活支援用具協会、
(一社) 日本車椅子シーティング協会、(一社) 日本福祉のまちづくり学会、
(一社) 日本人間工学会、バイオメカニズム学会、
- 4) 福祉機器コンテスト 2026 事務局の委託 (2026 年 3 月 1 日 (日) ～)
- 5) 選考委員会の設置 (2026 年 4 月 1 日 (水) ～)
- 6) 募集対象：機器開発部門、学生部門
- 7) 広報開始・応募要綱配布：2026 年 4 月中旬
- 8) 募集期間：機器開発部門 2026 年 4 月～6 月、 学生部門 2026 年 4 月～6 月
- 9) 展示・広報 (予定)
 - ・ キッズフェスタ 2026 (東京都) (広報) 2026 年 4 月予定
 - ・ バリアフリー 2026 (大阪府) (広報) 2026 年 4 月予定
- (3) コンテスト発展のための取り組み
コンテストの企画内容及び運営方法の見直し

1. 3 協会誌関連 (担当理事：植田瑞昌・小島みさお)

(1) 協会誌編集

- ・ 年 4 回、協会誌の発行に合わせて必要に応じて会場を確保し、協会誌編集委員会特集記事小委員会を開催
- ・ 会場利用での対面開催のメリットも大きいため、年 2 回の対面開催を計画

(2) 協会誌発行

以下の協会誌を発行予定

- ・ Vol.40 No.3 2025 年 8 月発行 特集「担い手の育成に向けたリハビリテーション工学教育 (仮)」
- ・ Vol.40 No.4 2025 年 11 月発行 特集「新サービス・新製品の開発に携わるいろいろな人達の思いと夢」
- ・ Vol.41 No.1 2026 年 2 月発行 特集「未定」
- ・ Vol.41 No.2 2026 年 5 月発行 特集「未定」

(3) 投稿論文 (査読依頼)

- ・ 年 4 回、投稿論文の査読者選定及び最終審査に合わせて、査読論文小委員会を開催
- ・ 年 4 回の締め切りに合わせて、査読者を選定
- ・ 査読者の選定にあたりアンケートにより査読候補者名簿を活用
- ・ 迅速な査読者の確保と依頼、査読、査読依頼と結果通知の電子化を目標とし、採択された論文は新刊号にあわせて掲載、J-STAGE に即時フリー公開

(4) 協会誌の段階的電子化

- ・ 協会誌電子化作業のうち、J-STAGE 掲載を、(株) ジェイピーシーに継続委託

(5) 協会誌編集委員会幹事委託費

- ・ 編集委員会幹事を松田健太氏 (神奈川県総合リハビリテーションセンター) に継続委託

(6) 論文賞に向けた検討

- ・ 査読論文小委員会を中心に、カンファレンス発表時に優れた発表に対し論文文化を促すために、「優秀発表賞」を選定

- ・優秀発表賞は座長推薦から行うが、受賞に至らなくても、推薦された論文発表は協会誌への投稿を促す
- (7) 協会誌発行の持続化に向けた検討
- ・SDGs の観点から郵送コストや紙資源の削減、および、情報保障の観点からのデジタル化等の推進
 - ・2026 年度中に発行形態を変更予定

1. 4 分科会・SIG (担当理事：桂律也)

(1) SIG 活動支援

- ・2025 年度初めから全 10SIG が協会内 SIG として活動
- ・SIG は、当法人が企画する事業を実現化する際に大変頼りになるパートナーであり、2025 年度も同様に協働しながら当法人の活動の活性化を図る
- ・各 SIG の SIG 活動費のあり方についても検討予定

(2) SIG 合同企画の開催

- ・全 10 SIG が法人内 SIG として活動開始したのに伴い、10 SIG 個々の主体的な活動を尊重しつつ、複数の SIG による合同企画の開催に向けて検討

(3) 各SIGの活動計画

詳細は「2025年度 SIG活動計画」として別紙1に提示

1. 5 分科会・支部 (担当理事：小島みさお・植田瑞昌))

(1) 支部への活動支援

会員はいずれかの地域の支部に所属し、各支部ではリハ工学に関わる人的ネットワークを構築
協会誌やホームページで全支部からの情報を掲載し、会員への周知を図る

支部ごとで活動状況に差があるため、2025年度は本部や他の委員会と協力し、さらなる支部活動への支援を積極的に行う

- ・継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金を配分
- ・2025年度も引き続き支部活性化のための情報発信の簡便化や効率化等について検討

(2) 各支部の活動計画

詳細は「2025年度 支部活動計画」として別紙2に提示

1. 6 企画推進事業 (企画担当理事：伊佐拓哲・中村詩子)

(1) 研修企画委員会の活動

- ・当協会会員サービスの向上および新たな会員獲得や発展に向けた事業について研修企画委員会にて検討

(2) 協会主催セミナー等事業

- ・協会だけではなく外部団体と連携しジャンルを超えた意見ディスカッションを実施することで、障害当事者の一助になるセミナー等を開催

(3) リハエ ミライ・アッセンブリー等の開催

- ・新たな会員獲得、及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進を目的に、リハエ ミライ・アッセンブリーを有料化して引き続き定期的開催

(4) 協会設立40周年記念事業の検討

- ・40周年記念事業委員会にて企画の立案を進める

1. 7 事業統括 (事業統括担当理事：金井謙介)

協会の広報活動および会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー

等を開催

(1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会等へブース出展し、広報活動を実施。その際に、各地域の支部で運営できるように体制整備を進める

- ・H.C.R. 2025（第52回国際福祉機器展）

リアル展：2025年10月8日（水）～ 10日（金） 10:00～17:00 （東京ビッグサイト西・南展示ホール）（東京都）

Web展：2025年9月1日（月）～ 11月7日（金） （H.C.R.Webサイト 特設サイト内）

- ・ニーズ・シーズマッチング交流会2025 東京会場：2025年12月18日（木）～20日（土）

- ・バリアフリー2026 2026年4月15日（水）～17日（金） インテックス大阪（大阪府）

- ・H.C.R. 2026（第53回国際福祉機器展）の出展準備 2026年9月下旬～10月上旬予定

- ・各地域で行われている福祉機器展や関連学会についても、可能な範囲で出展を行い協会の広報等を行う
各地域支部やSIGとの協力を積極的に進めると同時に、可能な限りセミナー実施とセットで行う

(2) セミナー開催

各福祉機器展において出展機会を有効活用し、出展効果の向上とリハ工学に関する普及を促進する目的で、積極的に出展社セミナー・ワークショップを開催

- ・H.C.R. 2025（第52回国際福祉機器展）（東京都）での出展社プレゼンテーション等を企画・開催

福祉機器コンテスト2025をテーマにセミナーと表彰式を実施

- ・バリアフリー2026（大阪府）での出展社セミナーを企画・開催

(3) 合理的配慮の推進

障害者差別解消法の施行により、障害のある人に対する合理的配慮の実施が民間事業者にも求められている。当協会においても、主催セミナー・シンポジウムや支部事業、カンファレンス等において情報保障をはじめとする合理的配慮の実施が求められており、そうした社会情勢に対応するための体制づくりを継続して行う。

1. 8 国際関連事業（担当理事：森田千晶・桂律也）

(1) 国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・国際関連推進委員会委員2名をGAATO(Global Alliance of Assistive Technology Organizations)理事として各種会議出席（オンライン）
- ・RESKO(Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society of Korea)およびTREATS(Taiwan Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society)との協定に基づく、各団体カンファレンスへの相互の代表（2名の参加費免除）の参加支援。協会代表2名の選定方法と推薦方法についての検討
- ・当協会代表者のCREATE Asia(the Coalition on Rehabilitation Engineering & Assistive Technology of Asia)、RESKO、TREATS、RESNA(Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society of North America)等への参加希望者の参加支援

(2) 国際連携推進委員会の開催

- ・当協会の国際連携等についてのアドバイスを行う国際連携推進委員会を設置し、Web会議システムにて年に2回程度の委員会を開催

1. 9 災害対策関連事業（担当理事：早川康之）

(1) 災害対策委員会活動

- ・災害対策委員会が持っている案件を解決するための委員会活動を活性化
- ・事業の実施に際して、活動開始までの段取りを、災害対策委員全員による検討ができるよう、Web会議システムによる会議を実施

(2) 災害対策セミナー等の開催

- ・第39回リハ工学カンファレンスin東京 内で災害対策セミナーを開催
- ・協会の広報活動および会員獲得に向けたPR活動、公益活動のためにセミナー等を開催
- ・運営は災害対策委員会を中心に各SIGや支部の協力を仰ぎながら企画し、当協会による平時からの災害対策啓発、技術伝承、及び災害時の福祉用具や住環境改善の対応等の内容を検討

(3) 災害対策情報の提供

- ・高齢者、障害を持つ方向けの災害対策に関する情報について、ホームページ上での提供を進める

(4) 他団体との協働

- ・(一社)日本災害リハビリテーション支援協会 JRAT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team) の正会員として、理事会、各委員会活動への参加
- ・JRATを中心とし、他団体との協力体制を構築
特に都道府県単位の地域JRATの活動に対して、リハ工学協会がどのように参加ができるか検討
- ・当協会の特長を生かせる災害対策を求めている災害対策関連団体を選定し、協力方法について検討
- ・災害関連イベントに関して、他団体との協働活動の可能性を検討

2 総務

2. 1 規則・選挙(担当理事:江原喜人)

(1) 2025年度代議員・役員候補者選挙

- ・2025年度代議員選挙を実施
- ・2025年度役員候補者選挙の準備

(2) 規程の整備

- ・各種規程を整備し、必要に応じて改定

2. 2 財務(担当理事:江原喜人・桂律也・金井謙介)

(1) 法人会計の管理

- ・2025年度決算の実施
- ・2026年度予算案の提案
- ・四半期決算の実施
- ・インボイス対応

(2) 分科会・支部の連結決算の準備

- ・分科会・支部の会計状況の把握
- ・会計システムの再構築および統合準備

2. 3 総会・理事会(担当理事:北野義明・江原喜人)

(1) 2025年度定時社員総会の開催

- ・2025年9月15日(月・祝)に定時社員総会を開催
方式:ハイブリッド参加型方式(書面による表決およびZoomウェビナーによるライブ視聴)

(2) 2025年度理事会の開催

- ・年5回(2025年7月、10月、12月、2026年3月、6月)、通常理事会を開催
- ・審議内容に応じた会議方式(対面会議またはWeb会議)により開催

2. 4 広報・渉外(担当理事:小林専光・鈴木太)

(1) 協会リーフレット印刷

目的に応じて内容や部数を検討し、協会案内用リーフレットを印刷

(2) Web会議システム利用

・Web会議システムを活用し、効率的で経費負担の少ない事業運営を図る

(3) 外部ストレージ利用

・理事業務を円滑に行うため、外部ストレージ（XServer Drive）を利用し、各種データを共有

(4) Web・メールサーバー等運用管理

・各種メール機能の設定、メールニュース送信
・Web運用及びコンテンツの情報更新について、管理委託を行う

2. 5 事務局（事務局統括理事：江原喜人）

(1) 事務局運営

・法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進める

(2) 会員管理システム導入の検討

・事務局体制支援を含めたシステム導入について検討
・イベント、セミナー等の集金システムとの統合・活用も検討
・必要に応じた委員会の設置

(3) 展示会出展における広報活動

3 後援・協賛事業

・後援・協賛予定事業（主催団体と内容）は下記の通りである

| No. | | 団体名 | 開催日程 | 内容 |
|-----|----|--|---------------------------|---------------------------------|
| 1 | 協賛 | （一社）日本生活支援工学会、 （一社）日本機械学会、 （一社）ライフサポート学会 | 2025年8月27日（水） ～29日（金） | 学術講演会LIFE2025 |
| 2 | 協賛 | （NPO）ヒューマンインタフェース学会 | 2025年9月10日（水） ～12日（金） | ヒューマンインタフェースシンポジウム2025 |
| 3 | 後援 | （一社）日本作業療法士協会 | 2025年11月7日（金） ～9日（日） | 第59回日本作業療法学会 |
| 4 | 協賛 | （公社）計測自動制御学会 | 2025年12月10日（水）、 12日（金） | 第26回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 |

【別紙1】

2025 年度 SIG 活動計画

※SIG 会員数（協会員数）は 2025 年 6 月 1 日現在

SIG 姿勢保持 会員数：24 名 ホームページ URL <https://www.resja.or.jp/posi-sig/>

代表者：繁成剛氏、 事務局長：児玉真一氏

- ・WEB サイト運営、会員専用 ML への情報発信、リハ工学協会事業への協力
- ・講習会：2025 年 9 月 20 日（土）・21 日（日） SIG 姿勢保持講習会 in 北海道（含む Zoom ウェビナー）
主会場：千歳市総合福祉センター
- ・役員会の開催：オンライン会議にて 12 月～1 月ごろに開催予定
- ・書籍（小児から高齢者までの姿勢保持・第 2 版）や用語集・資料集 PDF 版の販売

車いす SIG 会員数：39 名 ホームページ URL <https://www.wheelchair-sig.jp/>

代表者：沖川悦三氏、 事務局長：深野栄子氏

- ・役員会開催
- ・車いす SIG 講習会
- ・車椅子の歴史調査
- ・車椅子関連の玩具や絵本や書籍等の収集
- ・WEB サイト運営、講習会の案内等のメール配信
- ・日本車椅子シーティング協会車椅子姿勢保持基礎講習会（障害分野）の共催
- ・リハ工学カンファレンス、プレカンファレンス等、協会事業への協力
- ・講習会テキストのバックナンバーおよび関連書籍の頒布
- ・車いす SIG 設立 35 周年／講習会 30 周年／開催 50 回記念誌の頒布

自助具 SIG 会員数（Facebook グループ登録者）：46 名 ホームページなし

代表者（事務局兼務）：岡田英志氏

- ・第 39 回リハエカンファレンス in 東京での自助具 SIG のセッションへの参加

乗り物 SIG 会員数：5 名 ホームページ URL <https://ameblo.jp/sunrisejp007/>

代表者：麴澤孝氏、 事務局長：片石任氏

- ・SIG ブログの更新、情報提供、パラスポーツ情報発信
- ・セミナー開催（予定）、カンファレンスイベントのパネリスト、当事業への協力

SIG 褥そう防止装置 会員数 10 名 ホームページ URL <https://www.resja.or.jp/sig-pmps/>

代表者（事務局兼務）：新妻淳子氏

- ・事務局の引継ぎを含めて、SIG 活性化につなげるような活動を実施する

コミュニケーション SIG 会員数：11 名 ホームページ改修中

代表者・事務局：上野忠浩氏

- ・法人内移行に伴う体制整備
- ・ホームページ改修

SIG 住まいづくり 会員数：31 名 ホームページ URL <http://www.sig-sumai.info>

代表者：橋本美芽氏、 事務局長：鈴木基恵氏

- ・リハビリテーション工学協会事業への協力
- ・見学会開催。リハ工学カンファレンス開催日程に合わせて見学会を開催。
- ・SIG 内部移行化に伴う環境整備と活動方針の検討
- ・Web サイトリニューアルの検討

特別支援教育 SIG 会員数 5 名 ホームページなし

代表者：松田靖史氏、 事務局長：高原光恵氏

- ・リハ工学協会関連の行事への協力参加
- ・運営体制構築の検討

移乗 SIG 会員数：16 名 ホームページ作成中

代表者：古田恒輔氏、 事務局長：青木久美子氏

- ・リハ工協会事業への協力
- ・「リフト浴実技講習会」の共催（主催：福祉技術研究所株式会社）
（9 月：札幌市 社会福祉法人翔陽会 特別養護老人ホーム 清明庵 にて）
- ・「スリングの比較検討会」の共催（主催：福祉技術研究所株式会社）
（12 月：神戸学院大学にて）
- ・ホームページの作成：昨年度より継続事業
- ・役員会の開催 4 回（ 8 月、11 月、2 月、5 月 ）

義肢装具 SIG 会員数：23 名 ホームページ URL <https://resja.or.jp/po-sig/>

代表者：笹川友彦氏、 事務局長：砂野義信氏

- ・オンラインセミナー（SIG 会員向け 参加費無料 SIG 役員による義肢装具トピックスを中心に）

【別紙2】

2025 年度 支部活動計画

東日本支部

(1) 概要

昨年度に引き続き今年度も、早期に組織の編成を行い、今後の活動計画の策定に努めたい。東日本支部は広域であり、会議・セミナー・勉強会等については、Web 会議システム等を活用したいと考えている。東日本大震災等の災害の経験を活かして、地域 JRAT と支部の協力体制を構築していきたい。

(2) 2025 年度支部役員体制

支部長：桂律也氏

事務局：クラーク病院（桂氏）

連絡先：higashinohon@resja.or.jp

関東・甲信越支部

(1) 概要

関東・甲信越支部活動として、昨年度より掲げている「災害対策キャンプ」のテーマおよび、第4回ミライ・アssenブリーのテーマであった「障害者と災害を考ええる」を継続し、引き続き災害時に必要となるリハビリテーション工学的視点について知識・技術等の普及・啓発を目指す。

(2) 主要事業

1) オープンチャット（LINE）「リハ工関東・甲信越支部」を活用した情報発信の試行

2) 支部セミナーの開催（年1回程度）

・開催日：2025 年度内予定（実施日未定）

・場所：ハイブリッド開催予定（会場は未定）

・テーマ案：脊損者による完全手動型車いすでの富士登山の全貌（仮）

・講師：関東・甲信越支部会員（予定）

3) 第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京の運営協力と支部ミーティングの開催

・開催日：2025 年 8 月 8 日（金）～10 日（金）

・会場：東洋大学赤羽台キャンパス

4) 第 52 回国際福祉機器展ブース運営の協力

・開催日：2025 年 10 月 8 日（水）～10 日（金）

・会場：東京ビッグサイト（東京都）

5) ニーズ・シーズマッチング交流会 2025（東京会場）ブース運営の協力

・開催日：2025 年 12 月 18 日（木）～20 日（土）

・会場：東京都立産業貿易センター（東京都）

(3) 他学会等の事業への後援・協賛・協力

後援・協賛・協力依頼等があれば随時検討

(4) その他

必要に応じて支部役員会を開催する。支部役員会の開催

(5) 2025 年度支部役員体制

支部長：沖川悦三氏（継続）

幹事：水澤二郎氏（継続）

深野栄子氏（継続）

趙澤孝氏（継続）

植田瑞昌氏（継続）

片石任氏（継続）

河合俊宏氏（継続）

鈴木明子氏（継続）

岡野善記氏（継続）

石濱裕規氏（継続）

森田千晶氏（継続）

村田知之氏（継続）

事務局：神奈川リハビリテーション病院（村田氏）

連絡先：kkse@resja.or.jp

中部支部

（１）概要

年間２回程度の支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援等、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

（２）主要事業

１）支部セミナーの開催

第１回

- ・開催日：2025 年度内(実施日未定)
- ・場所：愛知県内(予定)、ハイブリッド開催も検討中
- ・テーマ：福祉用具見学会(製造企業等)
- ・講師：中部支部会員

第２回

- ・開催日：2025 年度内(実施日未定)
- ・場所：ハイブリッド開催（会場は未定）
- ・テーマ：機器活用勉強会および事例検討会(介護テクノロジー等)
- ・講師：中部支部会員

２）中部支部会員間の交流

- ・SNS を利用した交流や、対面による支部ミーティングによる情報交換の機会を指向する

（３）他学会等の事業への後援・協賛・協力

後援・協賛・協力依頼等があれば随時検討する

（４）その他

支部役員会の開催(随時開催予定)

- ・場所：基本的にオンラインにて実施する

（５）2025 年度支部役員体制

支部長：渡辺崇史氏（継続）

幹事： 北野義明氏（継続）

長束晶夫氏（継続）

事務局：日本福祉大学(渡辺氏)

連絡先：chubu@resja.or.jp

関西支部

(1) 概要

年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、バリアフリー2026への出展協力と協会主催セミナーの開催等の協会活動への協力を行い、リハビリテーション工学及び福祉用具・住環境整備等に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

(2) 主要事業

1) 支部セミナーの開催（年間1回程度）

リハ工関西支部&頸髄損傷者連絡会との共催セミナー（2025年度関西セミナー）

- ・開催日：2025年10月25日（土）
- ・場所：神戸市内
- ・テーマ：世界一周セミナー 旅の魅力編（案）

2025年度関西セミナー（第40回リハ工カンファレンスのプレカンファレンスとして）

- ・開催日：2026年春
- ・場所：未定
- ・テーマ：カンファレンスのテーマに即した内容で今後検討（案）

2) バリアフリー2026運営協力および出展者セミナーの開催

- ・開催日：2026年4月15日（水）～17日（金）
- ・場所：インテックス大阪（大阪府）
- ・テーマ：未定
- ・内容：ブース運営スタッフの派遣、出展者セミナーの開催等

3) オープンチャットを利用した情報共有と支部会員の交流

(3) 他学会等の事業への後援・協賛・協力

現時点では特になし

(4) その他

支部役員会の開催

- ・開催日：2025年9月ごろ、2026年5月ごろ
- ・場所：オンライン会議、もしくは対面会議（大阪、神戸）
- ・内容：支部セミナー等の企画検討、2025年度の事業報告・決算報告、2026年度の事業計画案・収支予算案について等

(5) 2025年度支部役員体制

支部長： 赤澤康史氏（継続）

副支部長：中村俊哉氏（新規）

松田靖史氏（新規）

幹事： 金井謙介氏（継続）

島本卓氏（継続）

林威智郎氏（継続）

剣持悟氏（継続）

宮野秀樹氏（継続）

太田智之氏（新規）

小坂菜生氏（新規）

丸岡稔典氏（新規）

事務局長：糟谷佐紀氏

事務局：神戸学院大学(糟谷氏)

連絡先：kansai@resja.or.jp

中国・四国支部

2024 年度より、支部体制構築に向け、有志による定例会議を実施している。早期に組織の編成を行い、今後の活動計画の策定に努めたい。中国・四国支部は会員登録数も少なく、会員獲得に向け、引き続き本部と連携し、体制構築に向け検討していく予定。

九州支部

(1) 概要

引き続き、インターネットラジオ配信を行う。九州支部掲示板と合わせ、情報交換を行い、リハビリテーション工学及び福祉機器に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

(2) 主要事業

インターネットラジオ配信を実施

配信内容候補

- ・ 障害者の生活に便利な道具や家電の紹介
- ・ 関連施設や企業を見学し、内容や感想を発信
- ・ 障害当事者へのインタビュー
- ・ その他掲示板からのリクエスト等

(3) 他学会等の事業への後援・協賛・協力

要請があれば検討する

(4) その他

支部役員会の開催（メーリングリストで意見・情報交換、必要であれば適宜 Web 会議を開催）

(5) 2025 年度支部役員体制

支部長： 小林博光氏（継続）

スタッフ：江原喜人氏（継続）

辻奈美氏（継続）

山形茂生氏（継続）

事務局：総合せき損センター(小林氏)

連絡先：koy@resja.or.jp

掲示板：<https://resja9.apage.jp/>

インターネットラジオ配信 (stand.fm)：<https://stand.fm/channels/65e6f8613e0b28cf81e52982>